

38班 いじめ未然防止カリキュラムの提言

背景

年々いじめの認知件数が増加している
→**仙台三高でもいついじめが起こってもおかしくない**のではないかと考えた
仲間外れにされている場面を見かけたら仲裁のための行動は取れますかという質問
→約六割ができない多分できないと回答
同様にSNSにおいても約七割が同じ回答
→**いじめの種を潰す事ができていない**

目的

いじめは加害者も被害者も**健全な教育がされてい**ないかできない状態にあると考えられる。よっていじめを少なくすることで健全な教育を促し、より良い社会への一助となると考えられる。

調査方法

文部科学省の「いじめ対策に係る事例集」を読み、**現在の対策では不十分である**と考えた。

→不十分な部分を補うカリキュラムを考えた。

カリキュラムの内容

①始めにいじめに関する意識確認のアンケートを行う

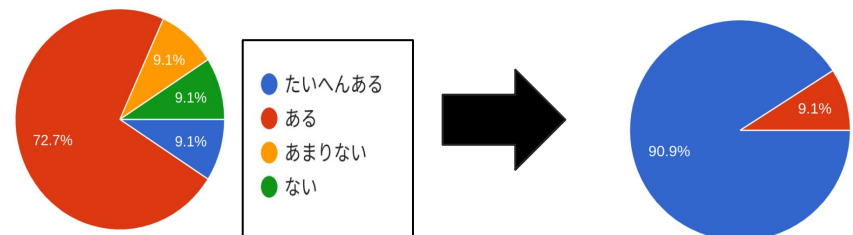
②実際にカリキュラムを行する

→具体的ないじめの場面を提示、その場面での正しいと思う対応について考え、その後グループワークで意見を共有し、まとめたあと全体で発表する。

・いじめに関する意識の変化を確認するためのアンケートを行う
③いじめ加害者はストレス発散のためにいじめを行っているケースが有る
→普段どんな行為でストレス発散しているか共有する

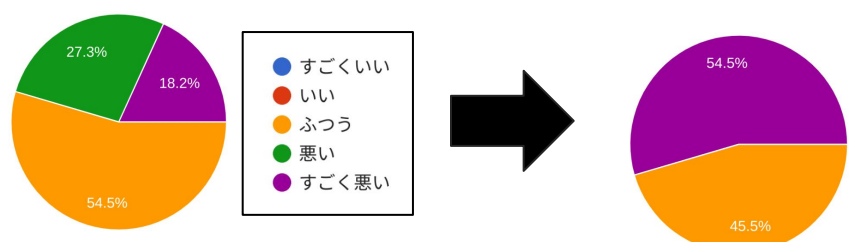
調査・実験の結果・考察

Q いじめに対して関心はあるか？
カリキュラム後に変化があったか？

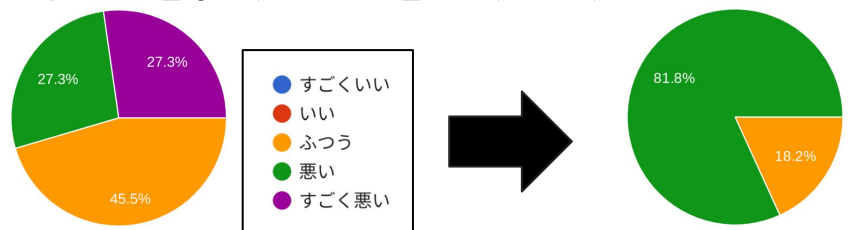


- ・いじめについて改めて考えられたから
- ・グループワークで互いの意見を共有できたから

Q 気に入らない人を無視することをどう思うか？



Q 陰口を言うことをどう思うか？



Q なぜいじめが起きるのか？

～カリキュラム前～

- ・人に好き嫌いがあるから
- ・性格が一人ひとり違く、他を認めることが難しいから etc

→肯定的でも否定的でもない。

～カリキュラム後～

- ・周囲の人がいじめを黙殺するから etc

まとめ

- ・いじめへの認識や関心が向上した人が多く見られた
- ・いじめを発見したときの対応の積極性が増す傾向が見られた
- ・このカリキュラムはクラスの雰囲気が出来上がる前の新学年はじめの時期に行い、「いじめは許されないことだぞ」という雰囲気を作ることにより効果的になると考えられる。

参考文献

いじめ対策に係る事例集
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/_icsFiles/afieldfile/2018/09/25/1409466_001_1.pdf
<https://www.jiji.com/jc/article?k=2021101300848&g=soc>